

## 平成27年度 学校評価実施報告書

領域	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
学校経営	<p>① H P を工夫し、本校の魅力ある取組のアピールを行った。スクールニュースを中心にリアルタイムに更新を行った結果、保護者の7割以上から、学校の情報提供が良くなされているとの肯定的回答を得られた。また昨年度と比較して2倍近くの生徒が、H P の充実がなされていると回答している。</p> <p>② 緑が丘中学校区青少年育成委員会や公民館連絡協議会に参加すると共に、地域の行事等に生徒が参加協力し、地域の方々から感謝の言葉をいただき、生徒も活動の励みとすることができた。また、今年度も引き続き千葉大学との高大連携を基本に、小中高大の連携に努めた。</p>	<p>① H P の更新を頻繁に行うことができたが、一層学校行事や部活動の活動内容を紹介を充実させることが課題である。他方、台風や降雪時の生徒、保護者に対する情報提供に工夫が必要である。</p> <p>② 生徒の地域行事等への参加は、生徒の有用感や充実感・達成感等につながることから、今後とも継続していく。また、近隣小中学校との連携を更に進める。また、高大連携事業についても、より一層の充実を図りたい。</p>
学習指導	<p>① 年間計画に基づき、授業研究週間、授業力向上研修を実施し、教員や保護者の参観、研究授業に対する教員同士の研修などにより、互いのよい刺激となり、授業改善に結びついた。生徒による授業評価アンケートも実施し、授業改善に役立てる利用ができた。また通年および長期休業期間を利用して実施している進学補習は今年度から組織的に運営したこともあり保護者、生徒、教職員共に8割強の肯定的回答を得られた。</p> <p>② 11月に学校評価アンケートを実施した結果、保護者生徒の授業に対する肯定的回答は昨年度よりもそれぞれ1割強増え、7割を超えている。教職員側の肯定的回答は昨年度同様8割強であり、昨年度と比較すると学習指導全般に対する双方の満足度の差は1割強縮まり良い傾向となっている。教員による学習指導の創意工夫、きめ細かい指導に重点を置いた指導が、生徒、保護者の満足度の増加につながる結果となった。</p>	<p>① 今後とも授業研究週間、授業力向上研修を継続し、他の教員の授業参観や研修、生徒の授業評価アンケートの結果を受けた授業改善に取り組み、充実した授業を展開していく。学校評価アンケートには、仕事をしている人に配慮し、授業参観日の設定や、部活動を長期休業中の進学補習に参加しやすいよう配慮を要望する声があった。どちらも今後の課題として検討する。</p> <p>② 引き続き改善に務める。保護者および生徒のアンケート結果では、昨年度同様家庭学習の少なさと自ら調べたり質問するという点で肯定的な回答が低くなっている。家庭学習が必須となるような授業展開と、やる気を引き出す指導など、進路希望に対応した授業を展開できるようにしていく。</p>
生徒指導	<p>① 第1学期末の皆勤者数は1056名中725名、2学期末時点では1053名中511名と非常に多い状況であった。</p> <p>② 教育相談については、教育相談室を中心とした教育相談体制を整えている。また必要に応じて個人面談を実施している。</p> <p>③ 人権教育の一環としていじめについてのビデオを上映し、いじめアンケートを実施した。アンケートではいじめと認知される事例はなかった。</p> <p>④ 今年度の自転車の事故発生件数は昨年度に比べ減少したが、バスの乗車マナーについての苦情が増加した。</p> <p>⑤ 学校評価アンケートの生徒・保護者の回答は9割以上が肯定的回答で、昨年度に比べ増加している。また教職員の生活面の指導についての回答も、9割以上が肯定的回答で、昨年度に比べ増加している。</p>	<p>① 時間を見据えて計画的に行動できる習慣の定着を促す。また遅刻の多い生徒には個別に面談を実施し、また家庭からの協力も不可欠であるので、保護者面談も実施する。</p> <p>② 今後も各担当者との連携を密にしながら生徒の心身の健全育成を図る。</p> <p>③ 引き続き教育活動での充実を図り、「思いやり」の心を提唱し、他人の「人権」を考えることができる心を育む。</p> <p>④ 引き続き交通規則を遵守する精神を育てると共に、最低限のマナーやモラルを自覚する心を育む。</p> <p>⑤ 毎時間の整容（服装チェック）を継続し、より一層の指導の定着を図る。また学年間の指導格差是正のために生徒指導部と学年指導係の合同会議を引き続き開催する。</p>
キャリア教育	<p>① 生徒の進路希望実現に向けてよく努力しているという回答は、教職員約9割、保護者約8割で、昨年度に比べ増加したが、差が認められた。</p> <p>② 1学年は年3回（10月進路講演会等）、2学年は年3回（12月上級学校模擬授業等）、3学年は年5回（5月専門学校ガイダンス、6月推薦入試説明会、9月面接ガイダンス等）の進路関係行事を実施し成果を上げることができた。</p> <p>③ 各種ガイダンス等の有効な対策が取られているという回答は、教職員ほぼ10割、生徒約7割と約3割の開きはあるが、教職員の評価は増加した。</p>	<p>① 進路に関する保護者への情報提供に努力したい。学年保護者会、保護者面談、進路通信配布などの場を積極的に活用していく。</p> <p>② 1・2年生を対象に同時に実施していた、上級学校ガイダンスを各学年の進路意識に応じて、別内容で実施する。また、保護者対象の進路説明会（P T A総会時）の内容を精選していく。</p> <p>③ 生徒は、ガイダンス、外部模擬試験などの重要性にあまり気づいていないので、主体的な進路選択の点から、事前指導、事後指導を通して意識づけに重点を置く。</p>

<p>特別活動</p>	<p>①生徒の自主的な活動を評価している教員は昨年度の7割5分から8割6分に上昇した。HR活動時の役割を認識している生徒は8割から8割8分となり、HRがまとまるように心掛けている生徒は8割8分であった。</p> <p>②学校に楽しく通っていると答えた保護者は、昨年度と同様の8割4分であった。</p> <p>③各行事への取組に関して、生徒の8割6分、保護者の9割1分、教職員の9割5分が肯定しており、ほぼ昨年度と同じであり行事の充実・活性化につながっている。</p>	<p>①教職員は全体的によくできていると見ているが、生徒間同士ではクラスに協力していない生徒もいると思っている割合が増加したと推測される。HR活動の取組に対する教職員の意識を一層高めていく必要がある。</p> <p>②否定的1割6分、1クラスを40人とする6人ぐらいが「楽しいと思っていない」ことに関して来年度以降細かい調査が必要と思われる。</p> <p>③この状況を維持できるように、学校行事に臨む現在の態勢の継続及び強化を図っていく。</p>
<p>特色ある教育活動</p>	<p>①7月にオーストラリア短期留学を実施し、19名が参加した。今年度は3年生の参加もみられた。11月に「国際理解セミナー」を実施した。「国際理解セミナー」の内容についての評価は直後のアンケートでは9割程度が良好と答えており、「本校卒業生の活躍を理解できた」「動物との関わり合いについてよく理解できた」等の感想が見られ、否定的な意見はほとんど見られなかった。学校評価においても、今年度は7割5分の肯定的な評価があった。(昨年度6割7分)</p> <p>②10月に授業公開を行い、延べ72名の参観があった。本校の授業展開や生徒の様子について、9割近い保護者から肯定的な評価を得られた。</p> <p>③千葉大学との高大連携授業を実施し、今年度も地域連携につなげることができた。</p>	<p>①オーストラリア短期留学、国際理解セミナーを今後も継続する。オーストラリア短期留学については、先方の学校との親密な関係を保ちつつ、マネジメント全般について業者の協力も得て、さらに充実したものにしていく必要がある。また国際理解セミナーでは、生徒の評価を左右することになる講師の人選や講演内容について、毎回多面的に検討する必要がある</p> <p>②「開かれた学校づくり」の一環として授業公開の評価は良好である。実施時期や方法等の周知の仕方についても更に検討し、今後も参観者の増加に努める。</p> <p>③千葉大学との連携および地域連携を今後も継続していく。</p>